

生活支援医療におけるソーシャルワーカーの役割と専門性について ーソーシャルワーカーが歯科医療に介入し支援を行った効果検証ー

社会福祉学専攻 水越 新人

要旨

本研究は、生活支援医療の現場において、医療ソーシャルワーカー（MSW）が歯科医療に介入することの意義と効果を明らかにすることを目的とした。日本では高齢化の進行に伴い、医療・介護・福祉の連携を前提とした地域包括ケアシステムの構築が急務となっている。特に歯科医療は、従来の治療中心型から生活機能の維持・向上を支える生活支援型医療へと役割が拡張しつつあるが、その重要性は社会的に十分認識されていない。また、通院困難や経済的困窮、社会的孤立などの生活課題が歯科医療の現場で顕在化しているにもかかわらず、MSW の制度的整備は不十分であり、適切な支援につながらない構造的課題が存在する。

本研究では、歯科医療における MSW の役割と可能性に着目し、ICF (国際生活機能分類) と F-SOAIP 記録法を用いて、生活課題と医療課題の相互作用を多面的に分析した。具体的には、糖尿病やがん、社会的ひきこもり、心理的ストレス、要介護高齢者など、現代の医療福祉領域における代表的な生活課題を含む 5 つの事例を対象とし、MSW 介入と歯科医療介入の双方が生活機能に与える影響を比較検討した。

分析の結果、MSW 介入は「参加」と「環境因子」の改善を通じて、クライアントの社会参加の促進や生活支援の広がりにも寄与することが示された。一方、歯科介入は「心身機能」と「活動」の向上に直接作用し、咀嚼・嚥下機能の改善を通じて生活機能の基盤を強化していた。特に、MSW が生活背景を整えることで歯科介入の効果が最大化され、歯科医師は治療成果を実感しやすくなるという相補的な関係が明らかとなった。

また、F-SOAIP 記録法を用いることで、支援過程の可視化と再現性の向上が図られ、ICF 評価によって生活機能の変化を多面的に把握することが可能となった。これにより、MSW と歯科医療の連携が、単なる支援の提供にとどまらず、クライアントと援助者の双方にエンパワメントをもたらす協働関係の成立に寄与することが示唆された。

本研究の意義は、生活課題と医療課題が複雑に絡み合う現代社会において、MSW と歯科医療の連携が生活機能の総合的改善に資することを実証的に示した点にある。今後は、MSW 配置モデルの検証や ICF 評価の標準化、多職種連携の実践モデルの構築など、より精緻な研究が求められる。本研究の成果は、生活支援型歯科医療の理論的・実践的基盤を提供し、地域包括ケアシステムの発展に寄与するものである。